

令和2年2月21日(金)

第2回福岡県気候変動適応推進協議会

北九州市の 気候変動適応策について

北九州市環境局
温暖化対策課



北九州市温暖化対策実行計画の位置づけ

北九州市基本構想・基本計画



北九州市環境基本条例



北九州市環境基本計画(2017年11月)

「2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現」



環境首都グランドデザイン

市民・NPO、事業者、行政が一体となった「世界の環境首都づくり」に向けた活動ビジョン

基本計画に基づく部門別計画

・北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画

(計画期間: 2016年度～2020年度)

※気候変動への適応策を収録、実質的な地域気候変動適応計画

北九州市温暖化対策実行計画の概要

■ 計画の目標 市域全体(2005年度比)

	計画期間	中期	長期
	2020年度	2030年度	2050年度
CO ₂ 排出量	▲8%	▲30%	▲50%
エネルギー消費量	▲8%	▲27%	▲44%

取組の目安(エネルギー)

部門	内容	2020	2030	2050
家庭	1世帯あたり	▲5%	▲10%	▲15%
業務	床面積あたり	▲6%	▲15%	▲23%
運輸	自動車1台あたり	▲10%	▲25%	▲40%
産業	エネ使用量の削減:毎年▲1%など			

※国の長期目標(2050年▲80%)を踏まえ、今後一層の上積みを検討

アジア地域(北九州市の2005年度排出量比)

	2020年度	2030年度	2050年度
CO ₂ 排出量	▲6%	▲75%	▲150%

■ 市役所の率先実行

	2020年度	2030年度	2050年度
CO ₂ 排出量	▲30%	▲50%	▲65%

■ 気候変動への適応策

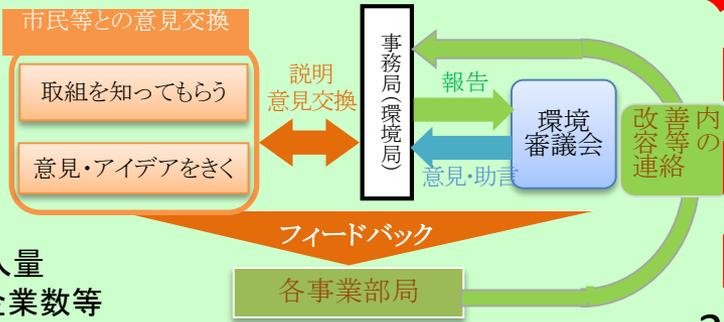
最も厳しい地球温暖化対策を採っても、今後数十年間の温暖化は避けられないため、温暖化に伴う気候変動による影響を応急的に軽減する「適応策」を実施。

■ 5つの方針

- (1) 環境が先進の街を創る
- (2) 環境が経済を拓く
- (3) 環境が人を育む
- (4) 環境が豊かな生活を支える
- (5) 環境がアジアの絆を深める

■ 計画のフォローアップ

- ・目標管理指標
CO₂排出量、エネルギー消費量
- ・進行管理指標
再エネ導入量、次世代自動車導入量
植林本数、ノーマイカーデー参加企業数等



計画に位置付けた主な適応策

- 温暖化に伴う代表的な影響とその評価及び基本的な取組方針を、平成27年11月に公表された国の「気候変動の影響への適応計画」から、本市の地域特性を踏まえて抽出。
- 各分野ごとに本市の気候変動適応の取組を掲載。

気候変動適応に関する本市の取組

分野		主な取組
I	農業・水産業	稲の高温耐性品種の導入推進、赤潮対策事業
II	水環境・水資源	公共用下水道事業、下水処理水の再利用
III	自然生態系	荒廃森林再生事業、港湾環境整備事業
IV	自然災害・沿岸域	河川事業、高潮対策、防災ガイドブックの策定
V	健康	救急医療体制の維持・確保、熱中症予防の啓発
VI	市民生活・都市生活	緑化の推進、透水性舗装の導入、クールビズ

適応策の取組例① ～自然災害・沿岸域～

○河川事業・公共下水道事業

- 河川事業では、豪雨等による河川の氾濫防止、流域の災害に対する安全性向上のため、河道や護岸の整備を実施
- 公共下水道事業では、雨水管やポンプ施設等の整備を行い、速やかに雨水を排除させるとともに、排除しきれない雨水を一時的にためる雨水貯留管を設置する等の浸水対策を実施

○海岸事業(高潮対策事業)

- 過去に高潮被害のあった、門司区の白野江地区や新門司地区等において、既存護岸の嵩上げや、消波ブロックの設置等の護岸整備を実施

○防災ガイドブックの策定

- 避難の心得やささまざまな災害の特徴、ハザードマップなどを掲載した「北九州市防災ガイドブック」を配布し、避難時等に活用



桜町北湊雨水貯留管の内部
出典：鹿島建設(株)HP



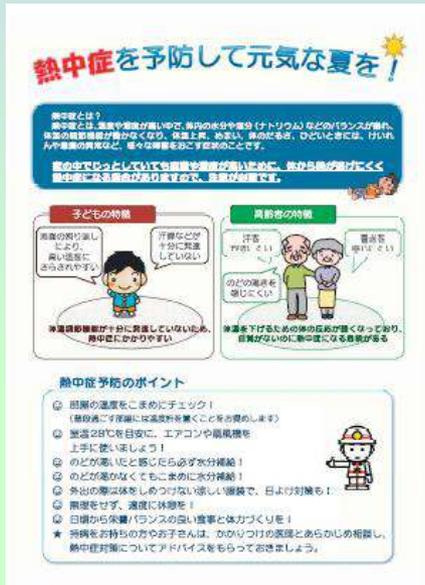
新門司地区における護岸整備状況



防災ガイドブック

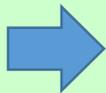
適応策の取組例② ～健康分野(熱中症予防)～

- 市政だより・ホームページ・チラシ・動画等で、熱中症予防・応急処置を啓発
- 環境省の専用サイトを活用し、時間ごとの警戒レベルを閲覧できる熱中症予防啓発のためのHPを設置
- 警戒情報を事前に配信する、福岡県防災メール「まもるくん」や環境省のメールサービスの周知等も併せて実施
- スマートフォンアプリによる暑さ指数の配信を実施



3時間ごとの暑さ指数の予測結果を配信

顔アイコンをタップすると予防指針を表示



熱中症予防リーフレット



アプリ (GO!GO! あるくっちゃ KitaQ)
(令和元年7月1日より提供開始)

熱中症予防啓発動画

適応策の取組例③ ～市民生活・都市生活～

○ライフスタイル改善に向けた取組等

- ・クールビズ・ウォームシェア、緑のカーテン、打ち水等の取組を、国が推進する国民運動「COOL CHOICE」と連携し推進
- ・「北九州市緑の基本計画」に基づき、緑の保全や緑化、公園整備等を推進



クールビズ・まちなか避暑地（クールシェア）

緑のカーテン（緑のカーテン収穫イベント）



北九州市打ち水大作戦



緑の回廊植樹会（都市緑化）

気候変動適応庁内研修会

- 気候変動適応に関連する部局を対象に、「気候変動適応庁内研修会」を毎年開催。
- 省庁、大学、企業等に講演を依頼し、気候変動適応に関する情報を提供。適応の視点を持った業務の推進と関係部局との連携強化を図っている。

【令和元年度 気候変動適応庁内研修会 概要】

日 時： 令和2年1月31日（金） 15:30～17:00

参加者数： 約40名（環境局、保健福祉局、産業経済局、建設局、上下水道局等職員等）

プログラム：

- ・世界、日本、福岡の気候変化と将来予測（福岡管区気象台）
- ・北九州市の地球温暖化対策（北九州市環境局温暖化対策課）



市民啓発イベント

第21回日中韓3カ国環境大臣会合(TEM21)のサイドイベントとして、市民参加型の啓発イベントを開催。

日 時: 令和元年11月23日(土)・24日(日)

場 所: JR小倉駅 JAM広場

来場者: 約500人

概 要: パネル展示、動画上映、VR体験等により、「COOL CHOICE(=賢い選択)」と地球温暖化の現状、気候変動適応の取組等をPR



VR体験コーナー



パネル展示

気候変動による水害リスクの評価

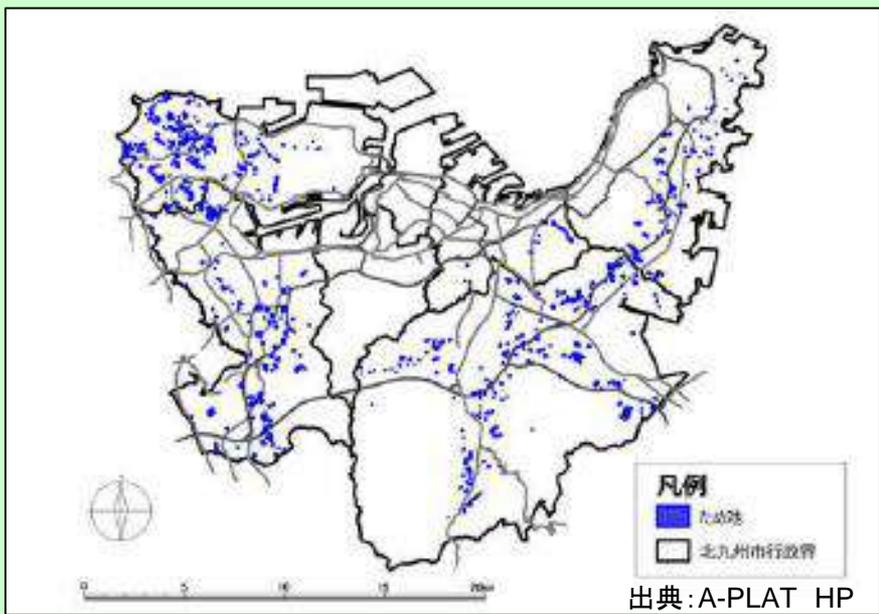
【地域適応コンソーシアム九州・沖縄地域事業】

■ 目的

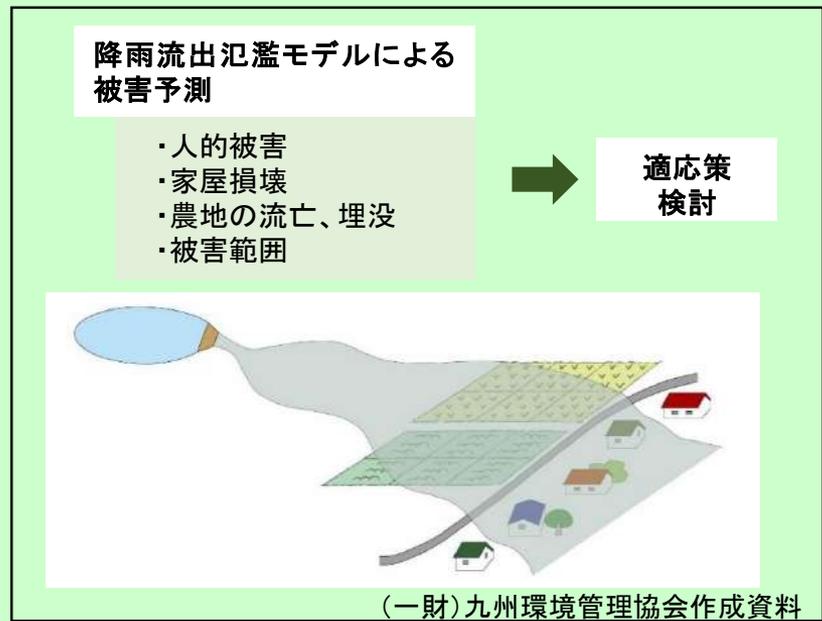
- ため池の数が福岡県内で最も多く、ため池等の水害リスクが比較的高い北九州市をモデルとした、気候変動を踏まえたため池の水害リスクの評価手法の検証及び適応策の検討

■ 調査概要 (H29年度～令和元年度)

- 北九州市のため池をGISデータとして整理し、解析モデルを用いて越流が発生するため池箇所数を予測
- 越流による下流影響度を算定し、水害リスクの高いため池を抽出
- ため池氾濫解析ソフトで氾濫区域を推定し、リスクに応じて適応策を検討



北九州市におけるため池の分布



影響評価のイメージ

ご清聴ありがとうございました



©ていたん&ブラックていたん,北九州市